神奈川県の率先実行の取組

神奈川県では、平成12年度に、国際規格である「ＩＳＯ14001」に基づいた環境マネジメントシステムの運用を県機関の一部で開始しました。その後、システムの対象範囲を拡大し、平成19年度には警察も含めるなど、現在では全ての県機関を対象とした環境マネジメントシステムの運用を行っています。

ＩＳＯ14001は、環境に配慮した取組を継続的に改善する仕組みになっていることが特徴です。

知事が定めた環境方針に基づき、目的・目標を定め、これらを達成するため、行動計画「環境マネジメントプログラム」を作成しており、このプログラムをもとに、日常活動や業務を環境に配慮しながら進め、その進捗状況を定期に点検し、見直しています。

この仕組み（ＰＤＣＡサイクル）に基づき毎年取組を進めることにより、継続的に日常活動や業務が改善され、環境に配慮した活動になっていきます。

なお、平成23年２月８日付け「平成22年度最高経営層による見直し」に基づき、平成23年度からＩＳＯ14001環境マネジメントシステムについて、神奈川県環境方針の重点的取組及び「環境マネジメントプログラム」を見直すとともに、審査登録機関による認証登録に代えて、ＩＳＯ14001の規格に適合していることを自ら宣言するという「自己適合宣言」のもとで運用することを決定しました。

ここでは、平成22年度における各プログラムの取組状況（進捗状況）を報告します。

1 グリーン購入の拡大と廃棄物の削減に向けた率先実行プログラム

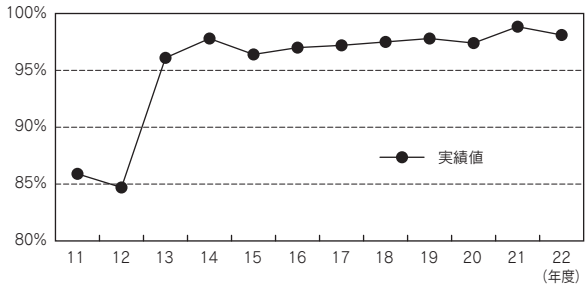
このプログラムは、物品を購入して、事務事業活動を行い、廃棄物となって排出するという一連の流れの中で環境配慮を行い、グリーン購入、廃棄物の発生抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再生利用（リサイクル）を進めています。

▶表3-1　平成22年度目標と実績

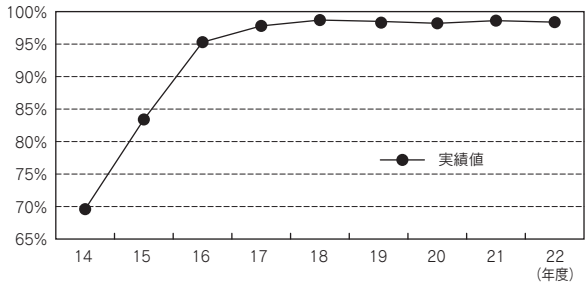
取組項目	目　標	実　績
本庁の経常物品のグリーン購入率の向上	☆	98.1%
出先機関等のグリーン購入率の向上	☆	98.4%
警察のグリーン購入率の向上	95.0%	95.4%
本庁の印刷物の再生紙等利用率の向上	☆	98.5%
出先機関等の印刷物の再生紙等利用率の向上	☆	99.6%
警察の印刷物の再生紙等利用率の向上	☆	100%
本庁の廃棄物発生量の削減　（廃棄物発生量を把握）	☆	551t
本庁のリサイクル率の向上	☆	92.3%
出先機関等の廃棄物発生量の削減　（廃棄物発生量を把握）	☆	4,063 t
出先機関等のリサイクル率の向上	55.0%	54.8%
警察の廃棄物発生量の削減　（廃棄物発生量を把握）	1,750 t	1,585 t
警察のリサイクル率の向上	40.0%	48.2%
本庁のコピー用紙使用量の削減　（使用量を把握）	☆	6,701万枚
出先機関等のコピー用紙使用量の削減　（使用量を把握）	☆	13,957万枚
警察のコピー用紙使用量の削減　（使用量を把握）	☆	9,466万枚

☆印は維持管理項目（実績数値は把握するが、新たな数値目的・数値目標は設定しない項目）

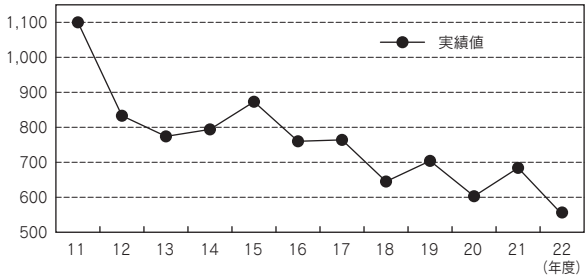
▶図３-1　本庁の経常物品のグリーン購入率（%）の推移



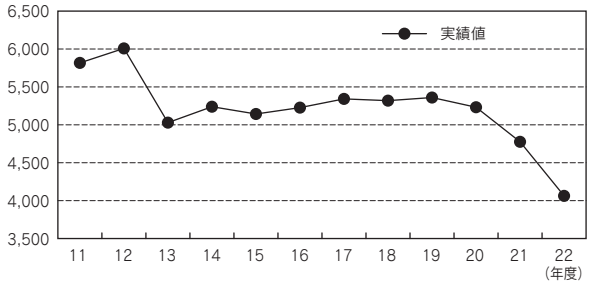
▶図３-2　出先機関等のグリーン購入率（%）の推移



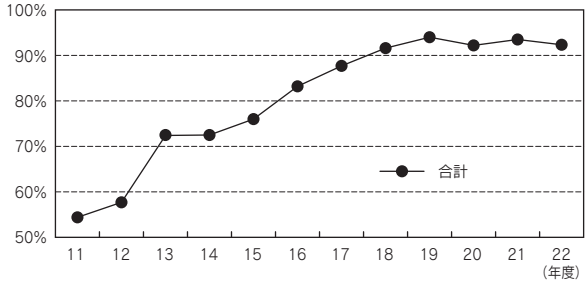
▶図３-3　本庁の廃棄物発生量（t）の推移



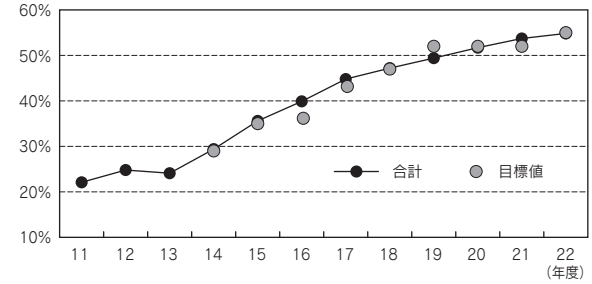
▶図３-4　出先機関等の廃棄物発生量（t）の推移



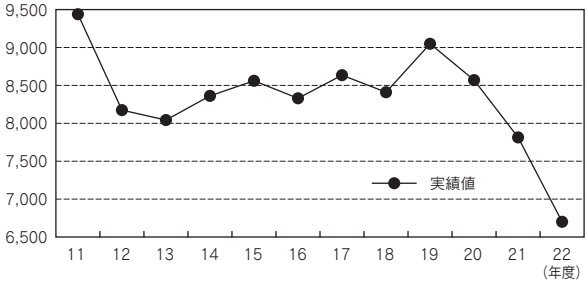
▶図３-5　本庁のリサイクル率（%）の推移



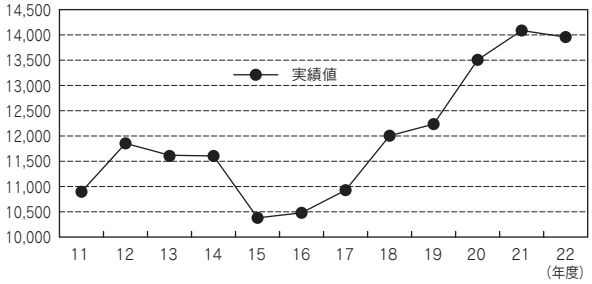
▶図３-6　出先機関等のリサイクル率（%）の推移



▶図３-7　本庁のコピー用紙使用量（枚数）の推移



▶図３-8　出先機関等のコピー用紙使用量（枚数）の推移



2 地球温暖化防止に向けた率先実行プログラム

このプログラムは、温室効果ガス総排出量に大きく関与する各庁舎のエネルギー使用量の削減、浄水場のエネルギー使用量の削減、道路照明への省エネルギー型の照明ランプの導入などを進めています。

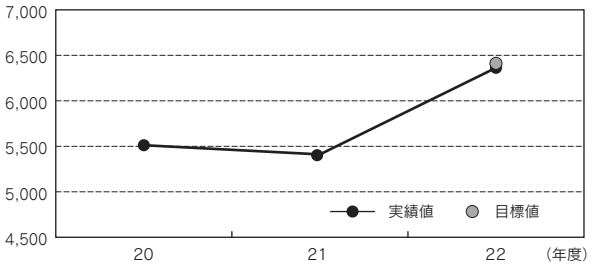
▶表3-2　平成22年度目標と実績

取組項目	目　標	実　績
本庁の温室効果ガス排出量の削減	6,412 t	6,363 t
出先機関等の庁舎の温室効果ガス排出量の削減	59,482 t	62,123 t
寒川浄水場　送水量当たりの温室効果ガス排出量の削減	132 t /百万㎥	129 t /百万㎥
谷ヶ原浄水場　送水量当たりの温室効果ガス排出量の削減	122 t /百万㎥	123 t /百万㎥
道路照明１本当たりの温室効果ガス排出量の削減	384kg/年・本	360kg/年・本

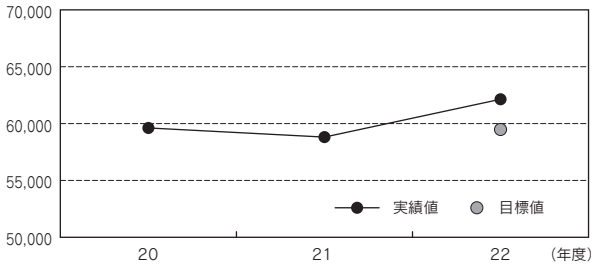
取組項目	目　標	実　績
警察の庁舎の温室効果ガス排出量の削減	29,274 t 以下	29,287 t
信号機のLED化の推進	24.4%以上	28.3%
本庁の水道使用量の削減	☆	5.8万㎥
出先機関等の水道使用量の削減	☆	159.5万㎥
警察の水道使用量の削減	74.0万㎥以下	71.5万㎥

☆印は維持管理項目（実績数値は把握するが、新たな数値目的・数値目標は設定しない項目）

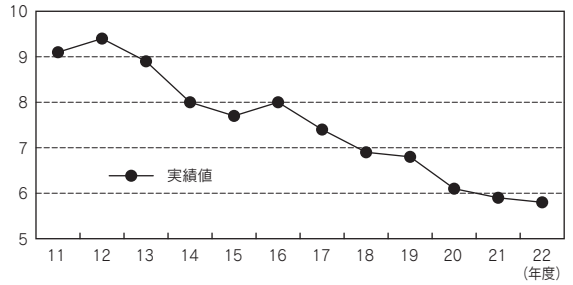
▶図3-9　本庁の温室効果ガス排出量(t)の推移



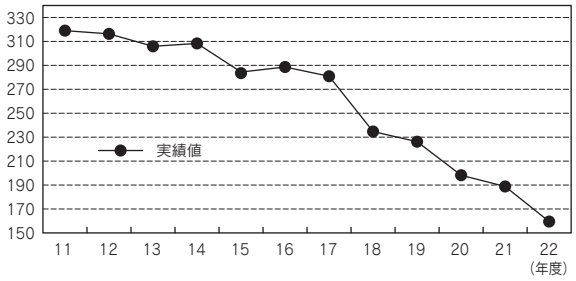
▶図3-10　出先機関等の庁舎の温室効果ガス排出量(t)の推移



▶図3-11　本庁の水道使用量(万㎥)の推移



▶図3-12　出先機関等の庁舎の水道使用量(万㎥)の推移



3 化学物質等の適正管理プログラム

このプログラムは、化学物質等による環境負荷を軽減するため、法律等で規制されている物質や機器などについて、法を遵守し、より環境負荷を軽減できるよう自主的な対応を進めています。

4 環境配慮型、環境創造型公共工事の推進プログラム

このプログラムは、公共工事の構想・計画段階、実施設計・積算段階、発注段階、工事段階、検査段階の各段階における環境配慮を進めるため、仕様書や現場説明書における環境配慮項目の拡大、工事の各段階におけるチェックリストの作成や見直し等を行い、環境配慮型、環境創造型工事を進めています。

また、グリーン資材調達の推進やリサイクル率の向上に努めており、主要な資材等については目標を定め実績把握を行っています。

▶表3-3　平成22年度目標と実績

取組項目	目　標	実　績
再生砕石の利用率の向上	☆	83.4%
再生アスファルト合材の利用率の向上	☆	65.9%
コンクリート塊のリサイクル率の向上	☆	99.9%
アスファルト・コンクリート塊のリサイクル率の向上	☆	100.0%
建設発生木材のリサイクル率の向上	☆	98.6%

☆印は維持管理項目（実績数値は把握するが、新たな数値目的・数値目標は設定しない項目）

5 環境基本計画

神奈川県の環境分野における基本的な計画である環境基本計画に位置づけているプロジェクトを進めています。また、これらの進捗状況について、環境審議会や県民による点検に加え、内部監査・外部審査による点検などを実施し、より効果的に進めています。

6 環境に視点をおいた本来業務の改善プログラム

このプログラムは、環境に視点をおいた本来業務の改善に向けて、各所属一つ以上のプログラムを作成し、実施しています。

平成13年度からは、各所属の取組の中で良い事例を「クローズアップ優秀事例」としてＩＳＯ14001の内部監査員が評価して公表しています。

●平成22年度　クローズアップ優秀事例（抜粋）

○パスポートセンターの出張窓口などでは、旅券を発行する機材を設置していないため、受付した申請書類をパスポートセンターの本書等へ郵送している。このため、万が一紛失した場合に備えて、従来は申請書をコピーしていたが、これを電子データ化し、保存する方式にしたことによって、年間約75,000枚の紙の削減が見込まれた。（パスポートセンター）

○厚木西高等学校では、保護者の費用負担により教室にエアコンを導入した際、「厚木西高校空調機使用規定」を作成し、校舎の階ごとに運転開始時間をずらすという運用方法の徹底を行うことにより、使用電力のピークを分散し、電力基本料金の上昇を抑える工夫を行った。また、同規定の徹底による生徒自らの節電の取組と職員室での集中制御を組み合わせることにより、無駄な運転を防ぎ、電気使用量とCO_2排出量の抑制に努めた。（厚木西高等学校）

○大和警察署では、警察署各課・各交番から環境活動を推進するリーダーとして「環境管理推進モニター」を、計25名選出し、ゴミ分別やコピー用紙の節約、公用車のアイドリング停止のほか、電気・ガス・水道の使用量など、環境への配慮に努めた結果、前年度と比較し、エネルギー使用量が約２割削減された。（大和警察署）

7 環境保全及び創造に関する情報提供と教育及び学習の推進プログラム

このプログラムは、環境保全及び創造に関する情報提供と教育及び学習の推進のため、各所属において積極的に実施しています。

▶表3-4　平成22年度目標と実績

取組項目	目　標	実　績
ホームページ「かながわの環境」のアクセス数の向上	150万件/月以上	155万件/月
環境教育に係る教員の知識等の向上（高等学校における環境教育についての研修会や研究協議会等に参加した教員数）	373人以上	385人

URL
「環境マネジメントシステム」
http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f246/